

冠動脈肺動脈瘻を合併した巨大冠動脈瘤の一例

相原 麻琴¹⁾、橋詰 典弘¹⁾、中口 美央¹⁾、
森井 翔太¹⁾、北川 嵩之¹⁾、藤岡 亜門¹⁾、
加藤 和憲¹⁾、村瀬 悠也¹⁾、渡邊 孝太¹⁾、
藤澤 英文¹⁾、中村 圭佑²⁾

1) 昭和医科大学横浜市北部病院 放射線科

2) 昭和医科大学横浜市北部病院 心臓血管外科

患者は61歳女性。甲状腺MALTリンパ腫に対する放射線治療後の経過観察中に胸部単純写真および単純CTにて左心室に接する腫瘤を指摘され、当院血液内科へ紹介された。

単純MRIで左心室に接する径約70mmの血腫または冠動脈瘤が疑われた。冠動脈造影検査、冠動脈造影CTが施行され、冠動脈肺動脈瘻を合併した冠動脈瘤の診断となった。

冠動脈瘤は左冠動脈前下行枝および右冠動脈円錐枝の2箇所が存在し、左冠動脈、右冠動脈円錐枝いずれも肺動脈との交通が疑われた。精査中に不整脈を認め、上記病態との関連が疑われたため、手術の方針となった。手術時に肉眼的に冠動脈肺動脈瘻と冠動脈瘤が確認され、冠動脈肺動脈瘻閉鎖術および冠動脈瘤切除術が施行された。

冠動脈造影CTによる詳細な解剖学的評価は術中所見と一致しており、病変の局在や血行動態の把握に有用であったと考えられた。